

東アジア戦略概観

East Asian Strategic Review

2003

顕在化するWMDの脅威

防衛庁防衛研究所編

『東アジア戦略概観2003』の編集執筆にあたっては、以下の方々から貴重なご意見を頂いた。この場を借りて、深く感謝の意を表したい。

江畑謙介（軍事評論家）
王 勇（北京大学教授）
賈 慶 国（北京大学教授）
寺島実郎（財団法人日本総合研究所理事長）
平岩俊司（静岡県立大学助教授）

（50音順：敬称略）

『東アジア戦略概観2003』編集・執筆担当者

上野英詞、大野拓人、小川伸一、小野圭司、小柳順一、川勝千可子、近藤重克、坂口賀朗、庄司智孝、塚本勝也、富永文乃、恒川潤、間山克彦、室岡鉄夫、森田桂子、湯浅剛、渡邊武（50音順）

はしがき

本書は、東アジアの安全保障環境について、2002年1月から12月までの1年間の動向を記述の対象としている。2002年は、前年9月の米国同時多発テロ事件を起因とする対テロ戦争が続く中で幕を開けた。しかし、年の後半から大量破壊兵器の拡散阻止との関係で、イラク、北朝鮮の問題が緊迫化し、解決の見通しが見えないまま、年を越した。本書が出版される頃には事態はさらに進行していると思われるが、北朝鮮問題についての状況把握のために、本書が参考になれば幸いである。

東アジアの平和と安定を確保するためには、この地域の安全保障環境を客観的に理解することから始めなければならない。『東アジア戦略概観』はこうした認識の下、防衛研究所の研究者が独自の視点から東アジアの安全保障環境を分析したものである。従って、本書は、政府および防衛庁の見解を示すものではない。

防衛研究所は、国際安全保障および戦史について調査・研究を進めるとともに、諸外国の国防大学に相当する教育も行っている。また、調査・研究の一環として、我が国の隣国である中国、韓国、ロシアおよびASEAN諸国との間で安全保障対話・防衛交流を推進している。こうした安全保障対話・防衛交流は、東アジア地域の安全保障について我々の見解を発信し、意見を交換することによってこそ、各国間の誤解を減らし信頼を醸成することが可能との考え方に基づいている。防衛研究所は、『防衛研究所紀要』やホームページ（<http://www.nids.go.jp>）を通じて広く調査・研究活動の成果を発信しているが、本書『東アジア戦略概観』もその一環として出版している。

本書は2部構成で、第1部は東アジアの安全保障を考える上で重要と思われる中長期的な課題を含め、2002年中に生じた事件をトピックスとして取り上げ、第2部では、朝鮮半島、中国、東南アジアおよびロシアの内政・外交・軍事情勢と、米国の東アジア政策および日本の防衛政策を記述している。第1部のトピックスとしては、小泉首相の訪朝と北朝鮮の核開発問題の再燃、東南アジアが抱えるテロ問題、中央ユーラシア情勢、それにABM制限条約失効後の戦略問題を取り上げた。本書が読者にとって東アジアの安全保障環境を理解する一助となることを希望するとともに、議論を喚起するものとなることを期待している。

平成15年（2003年）2月

防衛庁防衛研究所 第1研究部長
編集長 近藤重克